

(様式1)

令和7・8・9年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

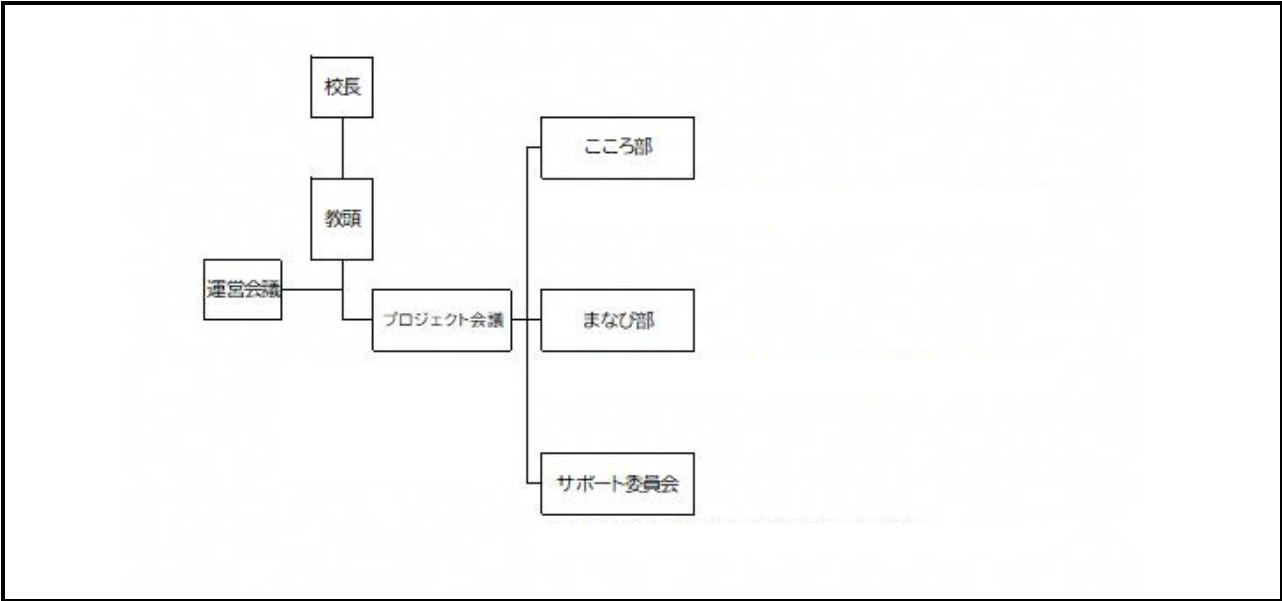
学校名	与謝野町立山田小学校							校長名	柴田 真樹
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	6 4 名
学級数	1	1	1	1	1	1	2		
事業担当教員名	尾江 恒孝								
① 中学校区で目指す子ども像									
② 目指す子ども像	つながる … やさしい子 考え行動 … まなぶ子 チャレンジ・リトライ … たくましい子								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	<現状> ・小規模校の強みを生かし、異年齢での取組や関わりを日常的に行っている。 ・自分の思いを伝え合える話し合い活動は一定できている。 ・委員会やクラブ活動、係活動では、主体性を重視しながら自治的能力の育成を目指している。 ・行事や取組では、自己進化を感じられるように全校統一のシートによる目標設定、過程、振り返りを大切にしている。 <課題> ・指示されたことに対しては取り組めるが、自分から主体的に考え、行動することに対して弱さが見られる。 ・固定化された人間関係の中で、発言できる児童が決まってきており、自分の思いや考えを伝えることを苦手としている児童が多い。 ・話し合い活動では、自分の考えや思いを表現するだけで、友達の考えや思いを受け止め、つなげて考えることができにくい児童もいる。 ・自分の行動をやる前から「できる・できない」で判断してしまい、新しいことや見通しの立ちにくいことへの挑戦には積極的でなく、失敗を嫌う雰囲気がある。 ・行事や取組、生活が学習（授業）とつながり、児童同士もつながり、児童同士で高め合う授業を通して、心理的安全性を高め、多様性を認め合ったり、協働したりする中で学習を楽しむ児童を育てていく必要がある。								
④ 目指す子ども像に達するための仮説	1 安心して学ぶことのできる環境（時間、空間、仲間）を充実させることで、何事にも前向きに挑戦し、粘り強く取り組める児童が育つのではないかな。 2 友だちと考えを形成することで学びが深まり、学力向上につながるのではないかな。 3 児童が見通しをもち、ゴールを明確にして学習することで、児童がメタ認知して、自律的に学習する力が高まるのではないかな。 4 学習のゴールや見通しの共有を行うことで、振り返りの質が高まり、論理的思考力を育成し、授業と生活との往還学習につながるのではないかな。 ↓ そのために ○みんなの意見や考えを聞き、自分の思いを大切にしたい自己決定ができ、それを認め合える居心地の良い学級づくりを目指す。 ○子どもが学び合う環境設定を含めた授業づくり ・自己決定をもとに学習が進む。→主体性の向上								

	・自分の力を「みんなで分かった」に広げられる関係づくりや環境づくり ・課題にチャレンジするための学び方の自由度を広げる。 ○「振り返り」を継続、充実させ「みんなで分かる授業」を創造する。 令和7年5月1日現在
--	--

【1 研究主題】

みんなで分かる授業を目指して ～自分の感じたことを大切に、友達と共に思いや願いを実現する児童の育成～
--

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

「みんなで分かる授業」の実践・研究
ア 低・高学年部での事前研を受けて、本時のねらい（振り返りの視点の明確化）や研究主題に沿った参観の視点（みんなで分かる、みんなが決める、みんなで創る）を共通理解し、公開、研究授業・事後研につなぐ。
イ 研究の方向性を共通理解するため、授業研究で個々の児童の変容を見取り、本時のねらいについて協議することで教師の見取る力を高める。
ウ 子どもが自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する力を付けるために、課題解決型の学習、反転学習や家庭学習の内容を工夫する。
エ 自分の学習を振り返り、調整する力を付けるために、自分で学習方法や学習量を変更したり調整したりできる授業展開（選択肢がある・学びの自由度を広げる）を取り入れる。
オ 子どもが学習の見通しをもつために、子ども自らが学びのめあてを立て、本時の認知能力や非認知能力の成長に気付く振り返りや次の学習につながる振り返りを目指す。

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	
	51	はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てる方だ。	計画性	
	52	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。	チャレンジ精神	

	73	授業で新しく学習したことをこれまで学習したと結び付けて理解したり、話し合いで活かしたりしている。	精緻化	
--	----	--	-----	--

* 5、6の分析項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

<教師の指導力向上に向けた具体的な手立て>

「みんなで分かる授業」の実践・研究の進化

- ア 参観の視点（みんなで分かる、みんなが決める、みんなで創る）を明確にした、公開、研究授業・事後研究会の実施
- イ 授業研究で個々の児童の変容を見取り、本時のねらいについて協議することをおして、教師の見取りの向上
- ウ 単元全体を見通した授業構成と、達成目標を児童と共有することを大切にした単元づくりによって、児童が自己の学習を調整しながら、自ら学ぶ授業

<個に応じた具体的な指導・支援方法>

【4年】

- ・自分の学びを自分で考え進めていけるように個々に応じた支援をする。
- ・単元ゴールを児童と共に明確にする。
- ・子どもが自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決するために、課題解決型の学習方法をおして想像力と情報活用能力の育成を目指す。
- ・自ら学び出す個々に応じた学習環境の整備をする。

【5年】

- ・チャレンジ・リトライできるような家庭学習の内容を自分で決めて、継続できるよう支援する。
- ・友だちと共に繋がりながら学ぶことができるような個別支援をする。
- ・自分の考えを整理したり、調べたことをまとめたりする活動の中で、個々の強みを活かして学ぶ力を伸ばす。
- ・学ぶべきことを明確にして、見通しをもたせる。
- ・児童の学習意欲を保つことができるような、タイムリーな評価を大切にする。

【6年】

- ・学習方法を学ばせ、それを選択させる。
- ・達成目標を児童と共有し、明確化する。
- ・振り返りを重視し、メタ認知能力を高める。
- ・友だちと学び合うことの良さを感じられるような繋がりをつくる。

<集団としての具体的な指導・支援方法>

【4年】

- ・学び合う学習集団を継続支援する。
- ・心理的安全性が保たれた学級集団を維持し、自分らしさが発揮できるようにする。
- ・異年齢活動の中でも4年生にできることを考え、積極的に活動を行う。

【5年】

- ・心理的安全性が保たれた学級集団を維持発展させ、学び続ける学習集団を支援する。
- ・学習以外でも活躍できる取組を大切にして、自己効力感や自己肯定感を高める。
- ・学ぶことが楽しいと思えるような環境整備をする。

【6年】

- ・繋がり合い、認め合えるような学級集団づくりを行う。

- ・過程を大切にしたい取組を継続していく。
- ・心理的安全性が保たれた学級集団づくり
- ・チャレンジ・リトライし続ける学習集団づくり

【8 仮説の修正】

- 1 安心して学ぶことのできる環境（時間、空間、仲間）を充実させることで、何事にも前向きに挑戦し、粘り強く取り組める児童が育つのではないかな。
- 2 友だちと考えを形成することで学びが深まり、学力向上につながるのではないかな。
- 3 児童が見通しをもち、ゴールを明確にして学習することで、児童が自身の現状を理解しようとし、自律的に学習する力が高まるのではないかな。
- 4 学習のゴールや見通しの共有を行うことと、児童自身が変化を実感できる仕組み（振り返りの仕方やICTの活用）をつくることで、振り返りの質を高めることができるのではないかな。

上記1～4について、実践し続けることで成果や児童の変容が見られるようになってきている。今後もこの仮説をもとに実践、検証していく。

【9 具体的な取組内容の修正】

「みんなで分かる授業」の実践・研究

- ア 低・高学年部での事前研を受けて、本時のねらい（振り返りの視点の明確化）や研究主題に沿った参観の視点（みんなで分かる、みんなが決める、みんなで創る）を共通理解し、公開、研究授業・事後研につなぎ、日々の授業改善を目指す。そのために、日常的に他学年の授業と一緒に考える。
- イ 研究の方向性を共通理解するため、授業研究で個々の児童の変容を見取り、児童の姿から単元全体を通して身に付けさせる力について協議することで、教師の見取る力を高める。
- ウ 児童自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する力を付けるために、探究的な学習を学校生活の多くの場面で仕組む。情報活用能力も系統的に育成し、反転学習や家庭学習の内容や取り組み方、探究活動を工夫する。
- エ 自己の学習を振り返り、調整する力を付けるために、自分で学習方法や学習量を調整できる授業展開（選択肢がある・学びの自由度を広げる）を取り入れる。
- オ 児童が学習の見通しをもつために、児童自らが学びのめあてを立て、認知能力や非認知能力の成長に気付いたり、次時につながる振り返りをしたりする。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

指導改善

- ・公開授業や研究授業等の事後研修会だけでなく、多くの研修のゴールを「明日の実践につながることに設定し、自己化シートを使うことで教員の指導改善への意識が高まり実践へと繋がった。本校で切り口とした「振り返り」と「児童が主体性をもって学ぶ学習」について、児童とその大切さについて共有できた。児童同士の振り返りの共有場面や、学びの自由度が高い授業により、児童の意欲的に学ぶ姿は増えた。
- ・授業公開については、改善しながら継続した。研究授業のある1週間を公開授業期間とし、全学級公開をしたが、見合ったり学び合ったりするための時間確保が課題となった。期間を延長することと、単元構想から担任一人ではなくブロック（低・中・高学年）で行うことで、授業づくりから実践、振り返りまでを学び合うことができた。授業改善の1つの手法として、自由進度学習を中心に行ったが、児童に委ねた方が効果的な内容、指導性を発揮した方がよい内容等、検証したいことを共有した上で公開授業を行うことで、一定の成果が得られた。そのことが、児童と達成目標を共有することを大切にしたい単元づくりに活かされ、どこで、どのような学習方法で学習するのか、見通しをもって学習に臨む児童の姿が増えた。

個に応じた手立て

・ 振り返りの活用、振り返りシートの工夫

振り返りの目的を単元毎に設定することで、児童の主体性を活かした授業づくりのポイントになっている。前時や友達、生活、学習意欲、次時等「つなげる」ための手段として振り返りを活用した。学び方や分かったこと、できるようになったことを情報端末等で紹介することで、学習意欲が低い児童の活躍の場を設定することができ、学習意欲の向上や持続にも効果的であった。また、振り返りシートを1枚に全単元の振り返りが記入できるようにしたり、学びのめあてと学び方のめあてを記入できるようにしたりするなど、自分の成長が実感できるようなシートに工夫改善した。児童にとって単元全体の見通しがもちやすいだけでなく、教師側の個に応じた学習進度や課題の把握、個別の指導支援にも活用できた。振り返りの大切さは、児童のアンケート結果（振り返りは大切だと思う…肯定的回答94%）から共有できていると確認できた。

・ 個々に応じた学習環境・家庭学習

めあて達成のための学習方法は、一人一人違う。様々な学び方に挑戦しながら自分の学び方を見つけられる環境づくりに取り組んだ。自分のアイデアを教科書で確かめる児童、用意されたカードをヒントにする児童、タブレットを活用する児童、教科書をもとに考えを形成する児童等学習における多様な選択肢を準備した。ペアやグループだけでなく、1人でやることも安心して選択できる雰囲気づくりも行った。「やりたくない。」「今はできない。」も認められることで、その場にいることができている児童もいる。全員が安心して学習に向かうことができるためには、教師の広い視野での児童の思いの受け止めや対応が大切であることが共有できた。児童にとって様々な選択肢があることで、児童が主体的に動き出し、課題解決へ前向きに取り組める時間が増えている。

また、家庭学習においては「自ら学び続ける児童の育成」を目指し、与えられる宿題ではなく、自分からやりたい学習を行う家庭学習への転換を進めた。一律一斉の内容から、自分で時間を決めて、自分に合った学習方法で学ぶことができるように、計画を立て振り返りながら全学級で進めてきた。実態に合ったところからのスタートであったが、高学年になるほど、自分の生活の中で自己調整しながら取り組む姿が増えた。ICTをうまく活用して、自分に合った使い方で、学習に生かしている児童も見られた。

【11 次年度の研究構想】

- ・ 学習データを有効活用して、個に応じた学習環境、学習方法、学習課題を準備することで個別最適な学びを実現する。
- ・ 対話の中で納得解をもとに合意形成を図る経験を数多く積み上げることで、質の高い学び合いにつなげる。
- ・ 自己調整力を発揮する・鍛える場面を授業場面だけでなく、特別活動等でも日常的に仕組むことで、主体的に学校生活を送る児童の育成を目指す。
- ・ それぞれの教科の見方・考え方を働かせ、付けるべき資質・能力を育成する授業展開を探究する。
- ・ 認知能力と非認知能力を一体的に育む教育活動を推進していく。
- ・ 仮説及び成果を検証するための質問項目の変更

30「自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。

⇒33「目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。

（学習だけでなく、教育活動全般において意識して取り組んでいることであるため）